

大野山ハイキング(日本丸を愛する男声合唱団)

令和元年5月18日(土)、神奈川県丹沢大山自然公園(西丹沢)に属する大野山(723m)へ、「日本丸を愛する男声合唱団」のハイキング、参加者5名(伊藤、岡本、鶴野、本間、山路)。



JR横浜駅から国府津駅、御殿場線に乗り換え、谷峨で下車、大野山の山頂が見える。これを目指し、さっそく歩き出す。田植え準備で、清水に満たさ

れつつある水田からカエルがゲロ！ゲロ！大合唱の出迎えを受けながら嵐橋(つり橋)を渡る。渡る人数制限は、最大10名と注意書きあり、我々は、一度に勇躍渡った。川の流れは、かなりゆっくり、酒匂川の上流(支流との事)、釣り人が二人視認できる。どうやらヤマメ釣りの様子、アユ釣り解禁は6月、釣竿の先が川下に流されている様だ、鮎釣りの、友釣りの動作とは異なる。この緩やかな流れでは、アユの遡上はないかもしれない。橋から覗いてみたが、川の底に光り輝く若アユの動く姿はなし。



大野山ハイキングコースの案内板が出てきた。『猿には餌をやらなさい！』とある。下山時に猿たちに会うことになる。歩き始めてまだ、まだ、体が慣れなくて、体全体が重く、怠い。

自動車の騒音が遠くに聞こえるようになってくると、木立の間から清風、小鳥の音が聞こえだした。歩道の草花は、赤、白、



黄色と咲いている。先日、JR新橋駅前が開かれていた古本市で購入(500円)した「山地の森林植物図鑑(解説:奥田重俊)」を、車中でにわかに勉強してきたが、さっぱり合致する

草木に出会うことはない。図鑑勉強の楽しみは、現場ではなくて、まさに、机上の楽しみなのかもしれない。

見渡しの良い所で、素晴らしい山並みを見る。新緑で燃えている。水源の森の呼ばれているのが、なるほどと頷ける。富士の裾野方面、ブルーリッジ マウンテン(大好きなカントリーの

歌詞: Take me Home Country Roads の Blue Ridge Mountains)

とは、この通りだろう。思わず叫びたくなる気分、ハイキングに来てよかった。

山頂近くになると、昔、牧場があったとの事で、緩やかに開け、なだらかスロープ。牧牛は、今は、いない。人気のハイキングコースだそうだが、どうして、かなり厳しい。山頂まで2時間45分(約12,000歩)を要していた。

楽しい昼食。丹沢湖、高松山(801m)も見える。あいにく、雲がかかり、富士山が望めない、しかし、これに勝る山並み、木立、濃淡鮮やかな新緑、その揺れる音は、心を癒してくれる。ハイカー達の笑顔、山頂に立った安堵感が清々しい。



下山の方が、要注意、膝や足元に細心の注意、ゆっくりと歩く。鹿よけの鉄棒製の扉(二か所あり)が、歩道の入り口にあるの

で開けて入り、またこれを閉めて歩きだす。

猿が登場、撮影することができた。初めての体験だ。

谷峨の駅が見えてきた。釣り人はまだ、いる、無我の境地か？楽しいことだろう。

ハイキングを終えた。一休食堂(谷峨駅近く)に入る。ビールはこの上なく旨い、声が弾む！常温で日本酒を注文、小皿の上になみなみと注がれたコップ一杯が出された。お酒が飲める健康に感謝！

谷峨駅のベンチにやっととどり着き、休んでいると、なんと線路山側でカエルの大合唱、また鳴いている。今度は、見送りか？カエル達の定演も近いのかも知れない。



素晴らしいハイキングでした！

(岡本)

※岡本さんからはいつものように速攻で原稿を頂いていましたが、編集の怠慢で発行が遅くなりました。岡本さん申し訳ありませんでした。(事務局)